小さな旅

～こころのふるさとにふれる旅～

コブック　vol.40

晴れたら　スキー場へ
～新潟県　十日町市松代～

2012年2月26日（日）放送

日本有数の豪雪地、新潟県十日町市松代。記録的な雪と格闘する中、人々が楽しみにしているのは、スキーだ。天気がよくなると、町にある小さなスキー場が賑わう。集うのは、冬は出稼ぎをしていて、長年スキーが出来なかった農家の人たち。 ほとんどが、６０歳を越えて、本格的にスキーを始めた。古くからスキーが根付く町を訪ね、晴れた日にスキー場へ行くことを待ちわびる、人々の思いに触れる旅。

旅の見どころ **1**

雪ほりとスキー

松代は、日本海の湿った空気が流れ込み、大量の雪が降る豪雪地帯です。今年も、2月上旬に、3メートルを超す積雪を記録しました。このあたりでは、雪から家を掘り起こすような作業から、雪かきのことを「雪ほり」といいます。冬は、毎日のように「雪ほり」に追われます。そうした中で、吹雪がやんだ日に、人々が楽しみにしているのが、スキーです。松代で、スキーが行われるようになったのは、大正の初め。日本に初めてスキーが伝わって間もない頃、ここで、大工がつくったスキーを楽しんでいたといいます。

旅の見どころ **2**

スキーヤーたち

20年前に出来た市営の松代ファミリースキー場。平日の午前中は、地元のスキーヤーが集まります。70代から80代の米農家の皆さん。これまで冬の間は、集団で出稼ぎに行っていたためスキーが出来ず、60歳を過ぎてから、本格的に始めた方たちです。その一人、矢澤茂正さん（76）は山口、群馬、東京など各地の建設現場で働きました。離れて暮らす子供たちが寂しい思いをしないようにと贈ったスキー。しかし、冬場は出稼ぎで、息子と一緒に滑ることは出来ませんでした。65歳でスキーを始めた矢澤さん、今では、孫にスキーを教えながら、一緒に滑ることが何よりの楽しみです。

旅の見どころ **3**

晴れたら仲間がいる場所へ

吹雪の日は、スキーが出来ず、人々は家にとじこもっています。スキー仲間の一人、柳宗一郎さん（80）は、ワラ細工作りに励みます。子供のころは、近所同士が集まり、囲炉裏を囲んで、賑やかに話に花を咲かせていました。しかし、今では、ワラ仕事を続けているのは、集落で柳さん一人になってしまいました。

そうした中で、柳さんが、何よりの楽しみにしているのが、天気の良い日。ゲレンデには、仲間が必ず待っているからです。スキー場は、柳さんにとって大切な場所です。

新潟県　十日町市松代　Map

ホームページ
http://nhk.jp/kotabi

memo

アクセス方法

＜車の場合＞
・東京から　：関越自動車道　練馬IC→六日町IC→国道17号
→国道253号
・新潟から　：新潟西IC→越後川口IC→国道117号
→国道253号
北陸・上越から：→国道253号

＜電車の場合＞
・東京から　：東京→JR上越新幹線（約90分）→越後湯沢
→ほくほく線（約45分）　→まつだい
・新潟から　：新潟→JR上越新幹線（約50分）→越後湯沢
→ほくほく線（約45分）　→まつだい
・北陸・上越から：直江津→ほくほく線（約40分）→まつだい